

中国玩具の安全対策強化



The Knights

3月に有害物質が検出されたペットフードの問題に端を発し、食品や練り歯磨き、自動車用タイヤ、玩具等において、米国などで中国製品の品質上の欠陥が続々と発覚している中、国内大手玩具メーカー各社は国内販売の多くを依存している中国玩具の安全対策を強化していくようです。

タカラトミーは、9月末をめどに広東省の現地法人に蛍光X線を利用した重金属の分析装置を導入予定です。装置を設置するのは、グループの中国事業統括会社のトミー深圳で、鉛、カドミウム、水銀などの有害物質が含まれているかや、その濃度の測定を行います。また、協力工場を訪れるなどで、品質を検査する担当者を補強するようです。同社が国内で扱う玩具は、数量ベースで約8割が中国製で、トミー深圳を通さず、日本から現地メーカーに直接発注・輸入している製品も多いようです。タカラトミーでは、安全確保ために千葉県浦安市の物流センターなどでも有害物質の有無を検査する必要があるとしており、外部の検査機関への委託などで早急に体制を整えるようです。

バンダイは、日本から担当者を派遣して実施する協力工場の立ち入り検査を強化するようです。2006年度は約100箇所を実施したようですが、今年度は対象を大幅に拡大する予定です。独自の品質基準が生産現場で順守されているかを確認するようです。また、蛍光X線装置を日本と中国の2箇所程度に設置することも検討しているようです。

セガトイズは今夏、広東省に現地事務所を新たに設け、常駐の品質検査担当者を数人設置しました。検査スタッフは適宜増員し、協力工場のチェックを強化するそうです。

中国玩具を巡っては、米、マテル社が安全性の問題から相次ぎ自主回収を発表しています。これに伴い、タカラトミー子会社は、マテル社から輸入・販売した自動車模型の安全性に問題があるとして、国内に出荷した2730個の自主回収を決めました。

当社では蛍光X線分析でのRoHS指令規制項目をはじめ、有害金属の分析には実績があります。お気軽にお問い合わせください。

資料 2007年8月29日付 日本経済新聞

機器分析箇所 竹下尚長